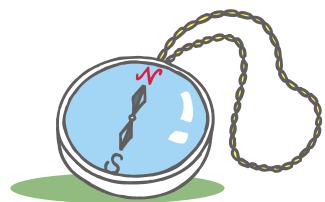


羅針盤



第 28 号

令和7年1月27日(月)

◆ 日本人だけが安全で豊かなことは、ありえない

生徒の皆さんには、元国連難民高等弁務官として活躍された緒方貞子（おがたさだこ）さんという人の名前を聞いたことがあるでしょうか。国際機関での難民支援に尽力をされた人で、国連でのユニセフの執行理事会での議長といった要職や、日本人の女性としては初めて国連日本政府代表部の特命全権公使といった仕事もされました。そして、1991年には、日本人として、そして、女性として初めてとなる国連難民高弁務官に就任されました。緒方さんは日ごろから「日本人だけが安全で豊かなことって、ありえないんですから。」と何度も語っておられました。この言葉の意味をしっかりと受け止めることが、今の私たちにできているのでしょうか。難民支援という国際協力を通じて、発展途上国の問題が「遠い国の誰か」の問題ではなくて、私たち日本人にとっても切実な問題であると緒方さんは考え、「文化、宗教、信念が異なろうと、大切なのは苦しむ人々の命を救うこと。自分の国だけの平和はあり得ない。」と話されています。これは持続可能な開発目標（SDGs）でも約束している「誰一人取り残されない」という概念とまったく同じことです。緒方さんはその言葉の通り、公平な社会の構築にむけて、命の平等を訴え、国境線への疑問を投げかけながら、もっとも弱い立場の人々のためにと尽力され続けました。彼女が、国連難民高等弁務官になられたのは60歳を超えてからのことでしたが、その年齢でも、何度も世界の紛争地域に足を運び、自らの目で現場を見て、難民支援に携わられて、多くのシニア世代に大きな勇気を与えることとなりました。自分がやりたいことやテーマを追求することは、人生を豊かにしていくためにも、とても大切なことです。リーダーになることを究極の目的にする必要はありませんが、自分が決定権をもてるポジションになれば、やりたいことを実現できる可能性がさらに高くなります。緒方さんはご自身が大切にするテーマを追及しつつ、リーダーとしてさまざまなことを実現した結果、国際社会に大きな影響をもたらすという結果を示された人です。気候変動に起因する自然災害、テロ、難民救済、紛争など、世界情勢は刻一刻とより一層複雑化していると言えそうです。緒方さんが目ざしていた「誰一人取り残されない」社会の実現。今を生きる私たち、そして、これからの未来の社会を担っていく生徒の皆さんにとって、引き継がれた大きな課題であることに間違いはありません。クルド人の

難民問題や、ボスニア・ヘルツェゴビナの民族浄化の危機に、敢然として立ち向かい、その後の難民支援のあり方を大きく変えた彼女の功績は、一言では決して言い表すことのできないものです。時代の大きなうねりの中で苦しむ人々に寄り添い続けた彼女の姿から、私たちには多くの学ぶことがあります。緒方さんの残した言葉が、今なお多くの若者たちが、国際協力のために活動するための原動力となる「心に強く響く」ものであったことを忘れてはいけないはずです。彼女自身の真剣な生き方が、言葉の強さとして表っていたからに他ならないはずです。自分たちができる事を、お互いの意見交換を交えて、支え合って生きていく先に私たちの未来があるはずだと思います。

